

I. DOC-RC/SRC

診断プログラムのデフォルト値の 意味と取り扱いについて

2014年12月4日
株式会社 構造システム

目 次

1. 耐震診断プログラム評価更新時の変更点について
2. SRF工法設計施工指針の最新評価版への対応について
3. メーカー製ブレースへの対応について
4. 変更が必要と考えられるデフォルト値
5. 診断マニュアルに関するデフォルト値
6. その他のデフォルトについて
7. SRC造の入力の注意点について
8. DOC-RC/SRC 追加を予定している主な新機能

2. SRF工法設計施工指針の最新評価版への対応について

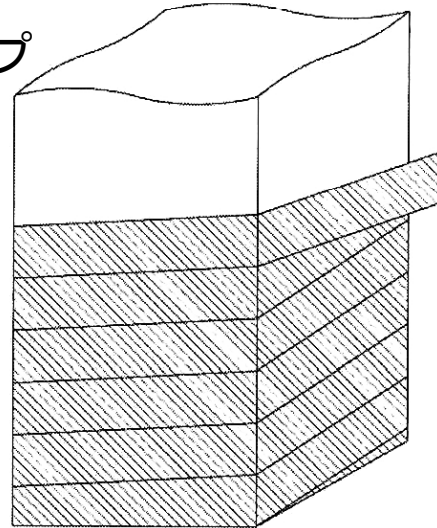
1. SRF補強の準拠基準
2. SRF補強の準拠基準の指定
3. 平成26年改訂・評価版の適用範囲

2-1. SRF補強の準拠指針

- 構造品質保証研究所株式会社の「平成26年改訂版 SRF工法設計・施工指針 同解説」に対応した計算ができるようになりました。

DOC-RC/SRCでは、次の2種のSRF補強を計算できます。

- せん断補強・靱性補強タイプ
- 軸耐力補強タイプ



SRF工法設計・施工指針 同解説

(一財)日本建築防災協会技術評価版

平成14年11月

平成17年11月 改訂

平成19年7月 第2次改訂

平成26年2月 第3次改訂

構造品質保証研究所

2-2. SRF補強の準拠指針の指定

すでに対応されている「2010年改定版 建築物のSRF工法設計施工指針と解説」も選択できます。

項 目	説 明	省略時
SRF補強の準拠指針	SRF補強の準拠指針を指定します。 「2010年改訂版」 「平成26年改訂・評価版」のいずれか	平成26年改訂・評価版

2-2. SRF補強の準拠指針の指定

「柱補強番号(形状入力)」(DC1)レコード、「壁補強番号(形状入力)」(DW1)レコードにより、部材ごとに指定を変更することも可能です。

項 目	説 明	省略時
補強タイプ	「SRF補強(せん断・靱性補強)」 「SRF補強(軸耐力補強)」のいずれか	
P9	SRF補強の準拠指針を指定します。 0＝設定値([耐震診断計算条件－1、2次診断]のSRF補強の準拠基準の入力値) 1＝2010年改訂版SRF工法設計・施工指針 2＝平成26年改訂・評価版SRF工法設計・施工指針	0＝設定値([耐震診断計算条件－1、2次診断]のSRF補強の準拠基準の入力値)

2-3. 平成26年改訂・評価版の適用範囲

平成26年改訂・評価版SRF補強指針の適用範囲

- 柱の断面形状は円形または正方形に近い矩形とし、補強材を周回する形で設置するものに適用する
- 充腹型の鉄骨部材を内蔵する柱は適用範囲から除く

上記適用範囲より、 $m \neq 2$ (補強形式 m が2 : 両側設置ではない) または $h_{fe}/h_f \neq 1$ (高延性材の貼り付け部の高さ h_f と有効な高延性材の貼り付け部の高さ h_{fe} が異なる) の場合、および柱が充腹形の鉄骨部材を内蔵する柱の場合は、適用範囲外となります。

適用範囲外となる場合は、以下のメッセージを出力し、「2010年改訂版SRF補強指針」によって計算を行います。

「SRF補強が平成26年改訂・評価版SRF工法設計・施工指針の適用範囲外の部材は、2010年改訂版SRF工法設計・施工指針によって計算を行いました。」